

■論文題目	中山間地域における集落間に関する研究 ～御料牧場という歴史資源にみる藪川地域を対象にして～		
■氏名(学籍番号)	前川 結生(0412021096)		
■指導教員	倉原 宗孝	■所属コース	地域社会・環境コース
■キーワード	藪川	御料牧場	歴史

1.研究の背景と目的

地方をはじめとする多くの地域では、若い世代の減少などの要因により、その地の歴史が埋もれつつあり、歴史をどのように継承していくかが課題となっている。多くの地域で歴史の継承活動が行われていることや、歴史的な町並みを活用したまちづくりなど地域の歴史を活かしたまちづくりの事例から、まちづくりにおける地域の歴史の重要性が伺える。

盛岡市の北東部に位置する藪川には、かつて天皇陛下が所有する外山御料牧場が運営されていた。その他にも藪川には御料牧場に関連する多くの歴史が存在する。しかし、盛岡市民でこれらの歴史を知っている人は少ないのではないかと。実際、周囲の知人だけでなく、藪川に昔から馴染みのある私自身もそれらの歴史について知らなかった。

本研究では、藪川地域全体の歴史を調査・整理した後、旧外山御料牧場という歴史資源にみる藪川地域において、藪川地域の歴史と旧外山御料牧場の実態の関連性について焦点を当てて調査し、藪川という中山間地域における集落間関係を明らかにすることを目的とすることで、藪川地域の明らかにされていない歴史に迫りたい。それにより、歴史まちづくり等の観点から藪川地域の再興の可能性を高めるきっかけとなることも狙いたい。

2.調査方法・調査結果

2-1.調査方法

- ・文献調査
- ・一般社団法人外山御料牧場・開拓研究会 中村辰司さんへの聞き込み
- ・自身の親戚を含む地域住民の方々へのヒアリング

2-2.調査結果

ヒアリングや文献調査を通して得られたことを年表や地図に整理し、主に以下のことがわかった。

藪川は、外山、岩洞、町村の3つの地域に分類され、旧外山御料牧場は、その内の外山地区に位置していた。外山地区には大きく分けて3度の入植があった。江戸時代後期、士族の次男・三男対策により、約130戸が外山地区に入植した。これが1度目入植にあたる。明治24年、宮内省が外山牧場を買い取り、旧外山御料牧場の運営が始まった。この際、旧外山御料牧場の労働者として他の地域から人員が集約され、これが2度目の入植にあたる。昭和22年、国の戦後開拓事業の1つの地として外山が認定され、これが3度目の入植である。同年、外山地区と同様に岩洞地区においても戦後開拓事業による入植が行われた。3地域を比較することにより、藪川地域には少なくとも江戸時代から人が生活していたこと、電気が導入された時期は地域によって差があり当時の人々は厳しい生活を送っていたことなどが考えられる。また、残っている資料が少ないなどの理由から、町村地区は他地域と比較してあまり情報が得られなかった。外山地区については地区内の成り立ちの違いまで知ることができた。

旧外山御料牧場については、開場された背景、外山が御料牧場開場の地として選ばれた理由の他、なぜ旧外山御料牧場の詳細が市民に知られていないのかということなどについて明らかになった。旧外山御料牧場の詳細が地元住民の方々にもあまり知られていないという事実からは、当時の厳重な情報管理の存在を再確

認することができた。

3. 考察

藪川地域・旧外山御料牧場の歴史について調査を進めていく中で、藪川地域全体の地理や歴史を再確認することができたとともに、藪川地域の歴史と旧外山御料牧場の実態の関連性については、旧外山御料牧場が開場した際の入植者と、それ以前の外山地区の既存の入植者の存在という観点から関連性が認められた。また、旧外山御料牧場の労働者に対する守秘義務が、集落間の関係性に影響を及ぼしていたのではないかとすることも考えられる。旧外山御料牧場は閉場したにも関わらず、現在の地域性に影響を与えている可能性が考えられる。

藪川地域には3つの地区が存在し、外山地区においてはさらに3つの地区に分類され、入植時期の違いといった集落間の関係性が見えてきたことで、地域内の成り立ちの違いやその構造の複雑さを知ることができた。地域内の成り立ちの違いや構造、地域ごとの特色といった部分の歴史について着目するという観点は、他の地域のまちづくりにおいて役立つだろう。まちづくりにおいて集落間の協力は必要なものであり、その際、今回の藪川地域の例のような旧外山御料牧場という歴史資源と地域・地区間の歴史の関連性が、地域の埋もれた歴史を紐解く鍵となり得るだろう。

4. 今後の課題

地域の成り立ち、旧外山御料牧場の実態など、歴史の詳しい内容について知ることができた一方で、地域によっては歴史が不詳な点が多く、思うように調査が進まない場面もあった。そのため今後は、引き続き資料を模索する他、ヒアリング対象者の輪を広げて、視野を拡大し、視点を変えながら調査していくことが求められる。加えて、現在ある情報や住民の方々のを、慎重に保管し、藪川地域の歴史を絶えず伝えていかなければならない。藪川地域の人口は年々減少する一方であり、歴史を伝える方法だけでなく誰が歴史を繋いでいくのかといった担い手の部分が大きな壁となるだろう。

地域の歴史に着目するということは、藪川地域のみならず、他の地域のまちづくりにおいても重要であろう。また、今回の研究で取り上げた藪川地域のように、市民にあまり知られていないというような歴史の埋もれが地域の課題としてある中で、地域の埋もれた歴史を明確にし、後世に歴史・記憶を繋いでいくことは今後のまちづくりにおいて重要であろう。

【主な参考文献】

- ・国立国会図書館デジタルコレクション「外山御料牧場沿革誌」(<https://dl.ndl.go.jp/pid/901105>)

閲覧日：2025年1月13日

- ・大久保好唯（1995）「夢なくして何の人生ぞ 伊藤勇雄の生涯」地方公論社,p147-195
- ・山本佳典（2023）「羊と日本人 波乱に満ちたもう一つの近現代史」彩流社,p74-78
- ・田中彰（2003）「明治維新と西洋文明―岩倉使節団は何を見たか―」岩波新書,p38-46